佐賀県医師会 健康情報誌
はつらつ通信
Medical Information "HATSURATSU"
健康は一日にしてならず
vol.54
平成30年1月発行

小児のアレルギー疾患：早期発見、予防、治療・管理のポイント

佐賀整肢学園からつ医療福祉センター院長 浜崎雄平

"アレルギー"という言葉は、人間が本来持っている病気から体を守る"免疫"の働きが不調で、体に有害に作用する時に使われています。アレルギーは４つに分類をされていますが、ここでは、いわゆるアレルギー抗体といわれるIgE抗体が関与した"Ⅰ型アレルギー疾患（即時型アレルギー疾患ともいう）"について説明します。Ⅰ型アレルギー疾患にはじんましん、アレルギー性鼻炎・結膜炎（花粉症）、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎などがあります。

これらの疾患に罹患している、もしくは将来発病する可能性があるヒトの多くは、血液の中にアレルギー抗体（IgE 抗体）をたくさん持っています。つまり、血液中のアレルギー抗体の量を測定すればアレルギー疾患の可能性（その時点での診断と将来の発症の可能性を含めて）をある程度推測することができます。

このアレルギー抗体を作り出す能力は両親から遺伝しますので、両親をはじめ血縁関係にある親族に上記疾患に罹患している方が多ければ、アレルギー疾患を発症する遺伝的素因が高いということになります。しかしながら、体がアレルギー抗体をつくるにはアレルゲン（アレルギー症状を引き起こす原因となるもの）を鼻や口から吸いこんだり、食べたり、皮膚についたりという環境からの後天的なアレルゲンにさらされることが必要です。すなわち、アレルギー疾患は親から引き継いだ遺伝性の素質の上に環境要因が加わり発症します。遺伝的因子は人為的に変えることができませんので、アレルギー疾患発症の予防には環境調整が大きな意味をもち、アレルゲンを生活の場からできるだけ排除する必要があります。

アレルゲンとして作用しやすいものは、疾患によって多少差があります。例えば、気管支喘息ではダニ、ハウスダスト、ネコの毛やフケなど、食物アレルギーでは鶏卵、牛乳、小麦など、アレルギー性鼻炎（花粉症）ではスギ・ヒノキ・カモガヤ・ブタクサなどの花粉やダニがアレルゲンになりやすいことがわかっています。アレルゲンではありませんが、たばこの煙は喘息の増悪因子としてぜひ排除したい因子です。

小児のアレルギー疾患

小児のアレルギー疾患は、成長にともなって変化していくことが知られています。乳児期に多いのはアトピー性皮膚炎と食物アレルギーで、幼児期に入ると気管支喘息が増え、更に成長するとアレルギー性鼻炎や花粉症が発症することが多いといわれています。このように成長にともなって罹患する疾患が変化していくことを“アレルギーマーチ”と呼びます（図参照）。

近年、食物アレルギーについて常識と考えられていたことを覆す大きな発見がありました。外国の研究結果ではありますが、ピーナツアレルギーに関して、ピーナツに対するアレルギー抗体ができていない乳児期に積極的にピーナツを食べた子は、その後ピーナツアレルギーになりにくいというものです。

※1 寛解：症状が一時的あるいは継続的に軽減した状態
※2 感作：アレルギーの体質を獲得すること

我が国でも乳児期の湿疹が強い子に早期から少量の鶏卵を摂取させると、鶏卵アレルギーになりにくいという研究結果が報告されています。これは、上で述べたことと矛盾しているように思われますが、まだアレルギー抗体が十分にできていない乳幼児を対象に行われた研究であり、医師の指導なしに自分で勝手に行うと、きわめて重篤なショックをおこす可能性がありますので、現時点では絶対に試みないで下さい。いずれにしても特定のアレルゲンに対するアレルギー抗体が作られてしまった後（IgE 抗体高値と診断された後）は、アレルゲンの排除が重要です。

食物アレルギー

小児の食物アレルギーの診断とその後の治療・管理のためには、血液のアレルギー抗体の検査に加えて、食物アレルゲンの負荷テスト（医療機関で少しずつアレルギーの原因となる食品を食べていく検査）が必要です。今の治療・管理に関する考え方は〝たとえある種の食品にアレルギーがあるとしても、症状が出ずに食べることができる量までは積極的に食べさせましょう〟ということですので、安全に摂取できる量や食品を正確に決定することが大事です。また、ごく微量で強いアレルギー症状を起こすことがはっきりすれば、救急時に備えた〝エピペン〟という携帯用の注射キットの携帯や救急搬送を含めた対応策をあらかじめ決めておく必要があります。佐賀県内のいくつかの病院小児科で食物アレルゲンの負荷テストを行っていますので、ぜひご相談下さい。

小児喘息

小児喘息は統計データを見ると、2010年くらいまでは右肩上がりに患児の数が増えていましたが、現在は頭打ちになっています。そして、2000年以降、強い発作のため入院治療が必要な子や登校できないほど重症のため長期入院が必要である子の数が激減しました。喘息発作による死亡数も減っています。その理由は小児喘息の病態がよくわかってきたことにより、受動喫煙の排除やイエダニの駆除など環境要因の改善に加えて、炎症を抑える吸入ステロイド薬の適切な使用が普及してきたことによると考えられています。

アレルギー性鼻炎

アレルギー性鼻炎（花粉症）は、年少児には少ない疾患でしたが、最近は年少児を含めて右肩上がりに患児数が増え続けています。1年中症状が継続する通年型（ダニがアレルゲンとなっていることが多い）と、花粉飛散時期だけ症状が見られる季節型（スギやヒノキ花粉がアレルゲンとなっていることが多い）があり、診断はそれほど困難ではありません。治療・管理は抗ヒスタミン薬内服とステロイド薬点鼻が中心です。標準的な治療ガイドラインに従って管理を行うことで、かなり上手に症状をコントロールすることができます。年齢制限はありますがダニやスギ花粉では舌下免疫療法という、より根本的な治療や、レーザー治療も開始されています。耳鼻科の専門医にご相談下さい。

アトピー性皮膚炎

小児のアトピー性皮膚炎は発症時期が乳幼児期にかさなるため、以前は食物アレルギーと関連づけて議論されることが多い疾患でした。確かに今でも、食物アレルギーの発症にアトピー性皮膚炎が関連しているらしいことや、逆に、乳幼児ではアトピー性皮膚炎の増悪因子として食物アレルギーが関係していることは定説となっています。しかし、アトピー性皮膚炎は基本的に皮膚の疾患ですから皮膚の炎症を抑えるステロイド外用薬を上手に使用し、毎日のスキンケアと増悪因子の除去により、ほとんどの場合上手にコントロールできるようになってきました。最近では2歳以上の子ではタクロリムスという免疫抑制剤の外用薬も使用でき、とても有用です。

佐賀県健康づくり財団「佐賀県健診・検査センター」のご案内

平成29年４月１日に「(公財) 佐賀県総合保健協会」と（一社）佐賀県医師会の「成人病予防センター部門」が事業統合を行い、「(公財) 佐賀県健康づくり財団（以下、財団)」として２ヵ所の事業所（天神・新中町）で業務を実施してきました。

財団では、県立病院好生館跡地（佐賀市水ケ江）に県医師会などとの複合施設である「佐賀メディカルセンタービル」の建設を進めてきましたが、この度完成し、平成30年１月15日（月）から同ビル内で施設・機能の充実を図った新たな「佐賀県健診・検査センター（以下、センター)」として、業務を開始しました。

センターの健診部門は、**プライバシー確保に配慮して男女別エリア（一部除く）を設け、女性、男性のそれぞれが受診しやすい環境を整えました。**また、健診などの検査を実施する検査部門では、精度向上に最大限の取り組みを行っていますので、安心して受診いただけます。多くの市民、県民の皆様のご利用をお願いします。

なお、センターでは人間ドック（日帰り・１泊)、事業所健診、特定健診（佐賀市実施の毎日健診はレディースデイや土・日曜の健診日も設けています)、がん検診など、色々な種類の健診を実施しています。また､皆様のご希望にお応えできるよう各種オプション検査（ＣＴ･ＰＳＡ(前立腺検査)･腫瘍マーカー･ABC（血液検査による胃がんリスクスクリーニング）検査など）も行っていますので、お気軽に問合せください。

健診の申し込みは完全予約制になっています。お電話でご予約ください。

自分の健康チェックは、
まずは定期健診から！　お忘れなく！

ドック・企業健診など予約電話
０９５２－３７－３３１３
佐賀市等実施の毎日健診予約電話
０９５２－３７－３３１４

佐賀メディカルセンタービル

発行／佐賀県医師会　〒840－0054　佐賀県佐賀市水ヶ江一丁目12番10号 佐賀メディカルセンター４階 TEL 0952-37-1414　FAX 0952-37-1434
URL：http://www.saga.med.or.jp　E-mail：sma@saga.med.or.jp